



山口市

報道資料

令和7年7月1日

1 件 名	山口市誕生 20 周年記念 くろがね しろがね 黒鐵から白鐵へ ⑨新小郡鉄道物語
2 日 時	会期 : 令和7年7月19日(土)～9月15日(月・祝) 開館時間 : 9:00～17:00 (入館は16:30まで) 休館日 : 月曜日(祝日の場合は翌平日)
3 場 所	山口市小郡文化資料館 2階展示室 山口市小郡下郷609番地3 (小郡郵便局の隣)
4 内 容	昭和30年代の鉄道界では、動力の近代化が急速に進み、これまでの蒸気機関車至上主義ともいえる体制が根底から揺らぎ始めます。 蒸気機関車の終焉を目前に、かつてのような活気や輝きを失い縮小の一途を辿る小郡機関区と小郡町にとって、山陽新幹線の駅を誘致する事は「鉄道の町」として生き残りをかけた一大プロジェクトでした。 電化という時代の抗えないうねりの中、衰退する町とその機関区は、いかにして新幹線駅を獲得し、再び「鉄道の町」としての誇りを取り戻したのか。 山陽新幹線全線開通50周年を迎えた本年、小郡町が行った新幹線駅誘致プロジェクトとその後の町の発展を貴重な資料と併せ紹介します。
5 問い合わせ	山口市小郡文化資料館 TEL 083-973-7071 FAX 083-973-7091 E-Mail cm-ogori@gamma.ocn.ne.jp

山口市誕生

20

周年記念

黒鉄から白鉄へ

【くろがね】

【しろがね】

新小郡鉄道物語

2025

7.19(土) — 9.15(月・祝)

山口市小郡文化資料館

2階「ふるさとの歴史」展示室

昭和33(1958)年11月1日、東海道本線に新たな電車が登場し、小郡機関区に衝撃が走ります。特急「こだま」の誕生です。花形路線の長距離列車が、蒸気機関車から電車に置き換わったことは、蒸気機関車を頂点とする時代の終わりを告げるものでした。

本企画展は、動力の近代化という抗えない時代のうねりの中、縮小の一途を辿る小郡機関区と「国鉄の町」と呼ばれた小郡町が、生き残りをかけて挑んだ「新幹線駅誘致プロジェクト」の知られざる物語です。

〈開館時間〉 9:00～17:00(入館16:30まで)

〈休館日〉 月曜日(祝日の場合は翌平日)

〈入館料・入場料〉 無料

〈駐車場〉 有(16台)

〈協力〉 JR西日本

鉄道OB会 山口支部

鉄道OB会 小郡分会

鉄道とくらしを記録する会

小郡総合支所・小郡図書館

初代ドクターイエロー



chapter

3

**思惑渦巻く
線路選定と
用地買収**

新幹線のルート選定は、地域の利害が絡む大問題である。知られざる小郡近郊の路線選定と難航を極めた用地買収の攻防とは…。

chapter

2

特急はと

**「鉄道の町」
復活への切り札**

縮小の一途を辿る小郡機関区と、6割が国鉄関係者という小さな町が挑んだ、一発逆転の新幹線誘致戦略とは…。



chapter

1

特急かもめ
客車スハ44

**機関区の
衰退と電化の波**

山陽本線電化に伴い、車両基地としての役割を失った小郡機関区。貨物輸送の要として最強を誇った町の機関区は、このまま衰退して行ってしまうのか…。



chapter

4

**我が町に新幹線が
やってきた！**

新幹線の登場に「鉄道の町」の威信をかけて祝賀会に挑む小郡町と、衰退する町の発展を支えた商店街の光と影とは…。

chapter

5

**町発展の
最終奥義**

小郡町は常に鉄道と共にあり。大規模発展の裏に隠された先人たちから受け継いだまちづくりのシナリオとは…。



小郡駅以西電化完成
(昭和36(1961)4.20)



新幹線開通テープカット
(昭和50(1975)3.10)

山口市小郡文化資料館

〒754-0002 山口市小郡下郷609番地3
TEL 083-973-7071



[HP]



[X (@Twitter)]



交通のご案内



JR新山口駅北口より【徒歩15分】
JR周防下郷駅より【徒歩12分】



中国自動車道小郡インターチェンジより【車7分】
山陽自動車道山口南インターチェンジより【車20分】
国道2号線(小郡バイパス)小郡インターチェンジより【車7分】



防長バス小郡第一病院前バス停より【徒歩5分】
防長バス下山手バス停より【徒歩1分】

